

ペットも進む高齢化

大切な「家族」 お世話します



飼い主の事情で飼えなくなった犬や猫を死ぬまで世話する施設「ペットリソートカレッジ日光」が今月1日、日光市根室でオープンした。ペットの終生ケアをNPO法人ながら小規模施設で行うケースはあるが、ビジネスとして取り組むのは、全国でも例がないという。本格的な「ペット版老人ホーム」の登場は、高齢化の波が人間だけでなく、ペットにも押し寄せているという実態を反映している。

ペットリソートカレッジ日光は、日光市日光線・下野大沢駅から車で10分ほどの、自然に囲まれた約10万平方メートルの敷地にある。東京都西新宿の「ペットリソートカレッジ」が運営する。

入り口に建つ山小屋風クラフハウスには、約30匹が収容出来る。ペットルーム(約100平方メートル)や室内トレーニングルーム(約80平方メートル)、クリニックを備える。

屋外には、ペットを放し

日光に施設オープン

て自由に遊ばせることが出来る。ドッグランが3(3000、2000、1000平方メートル)、飼い主とペットが散歩するハイキングコースなどがある。

訓練士を含むスタッフ4人で、終生ケアのほか、一時預かりやしつけの訓練、「里親」探しの代行サービスを行う。精力的な支配人は「家で飼っている時よりも

犬の大きさに合わせた個室のペットルームが用意されており、ゆったりと過ごして過す(日光市根室のペットリソートカレッジ日光)。



ハイキングコースでは、緑に囲まれた中で愛犬との散歩を楽しむ。

近い環境でのケアを目指している」と話す。

ペットを入所させる場合、飼い主は手放す理由やペットの性格などを伝える必要がある。費用は1匹あたり年60万〜100万円。所有権はあくまで飼い主にあり、病気の時の治療費も飼い主が負担する。

終生ケアの利用は今のところゼロだが、問い合わせは多く寄せられているという。「里親」探しではすでに犬3頭、猫2匹を預かっており、今後、インターネッ卜などを通じて引き受け手を募集する。

2003年の東京農大の調査によると、犬の平均寿命が11.0歳、猫が9.9歳となり、01年に比べてそれぞれ3.3歳、4.8歳も長くなった。ペットを快適な室内で飼い、病気や

ドッグラン3か所 ■「終生ケア」「里親探し」も

けがをした場合の手当てを丁寧にするなど大切に育てているためと見られる。

一方、飼い主が長期入院したり、引っ越しなどで住環境が変わったりするなどの事情で、ペットを飼えなくなるケースが増えている。手放されたペットが、保健所などで殺処分を受けるとも少なくない。

3歳のトイプードルを連れ、ドッグランを利用しに福島県郡山市から夫婦で訪れた吉田仁美さん(46)は「森林に囲まれて良い環境だ。(終生ケアは)自分が年老いて犬の面倒を見られなくなったら時に便利なサービスだと思わずに関心を示した。

運営会社の正宗伊藤社長は「ペットの命に責任を持つ環境を整えたい」と話している。

営業は午前9時〜午後6時。年中無休。問い合わせは「ペットリソート日光」(02-8802-2200)へ。

「いつまで」

吉本興業社長らお

「敬老の日」の17日、本興業の吉野伊佐雄社長有志が「情熱の赤いバニャンパーン」と称して、宮市内の老人福祉施設を訪れ、お年寄りに約100本の赤いバラをプレゼントした。

バラの花は、3、4年保存できるという「プニードラワー」と呼ばれるもので、今後の人生をやかに生き生きと過ごしてほしいとの願いを込め、「いつまでも情熱を」メッセージを添えた。

この日は、吉野社長がRO法人「日本フラワーインター協会」の高橋真由、県内在住など対一日入場割引、東京ティズニリーゾー

東京ティズニリーゾー(TDR)を運営するエンタールランド(千葉県安房)は、栃木県に在住なは通勤・通学する人を急いで入場券の料金を引き、「秋期限定スペシャルパスポート」を販売している。割引パスポートは、用で券の1枚目には、